

◆巻頭言◆

新たな環境問題にできること

香川県環境保健研究センター所長 橋本和久



新しい年になり、2か月が経過していますが、毎年、新年から年度末における時間の早さには驚かされます。

この春で中国・四国支部長としての役割を終えますが、この間、会員の皆様の熱心な調査研究や積極的な会誌等への投稿などに厚く敬意を表しますとともに、これらの成果が社会の役に立つことを願ってやみません。

さて、昨年は「気候変動適応法」が公布されました。環境省の熱中症予防情報サイトでは、暑さ指数（WBGT）が28℃（厳重警戒）を超えると熱中症患者が著しく増加するなど熱中症予防の情報提供を行っています。気候が変わると健康面だけでなく、産業や経済、社会など私達の生活に重大な影響を与えることとなりますが、環境省が熱中症に取り組むことは、気候変動を含めて守備範囲が広がったものと認識しています。

昨年12月1日には、国立環境研究所内に気候変動適応センターが設立され、気候変動に関する情報の収集・整理・分析や研究を推進するとともに、国の研究機関や大学等と協力し、成果の提供や技術的助言を通じて、気候変動適応策の推進に貢献することとしています。環境省の来年度概算要求においては、地域レベルの気候変動影響及び適応策について、科学的知見の集積に資する研究を実施し、地域気候変動適応センターの活動も促進するパッケージが示されています。

会員の皆様の中には、地域気候変動適応センターの設置や検討を含めて、地域での気候変動適応策の基盤づくりに取り組んでおられるとお聞きしています。

当センターは、これまで局所的・限定的な課題解決をテーマに挙げてきましたが、地球温暖化といった規制や対策が難しい課題をテーマにすることはできないか模索していました。来年度からフロンガスを中心に温室効果ガスを測定できるよう計画しています。地方で測定する意義はあるのか、地元産業のためになるのか、他の機関との連携はあるのか等の意見もありましたが、地方環境研究所として、世のため人のためにできることは何か、環境問題で関心の高い気候変動をテーマにチャレンジすることを決めました。将来、農産物や動植物への影響なども把握できるよう、県内の試験研究機関との連携ができればと考えています。

グローバルな環境問題では、昨年度からマイクロプラスチックの調査研究に取り組んでいます。数々の種類のプラスチックの劣化試験ができるよう当センターの屋上には、手作りの装置が組立てられています。また、環境中のマイクロプラスチックを簡易に測定できる分析手法の開発にも取り組んでいます。これらの取り組みは、県民の皆様へ海ごみの啓発活動をする中で、とりわけプラスチックの排出抑制に関心を持っていただくことが目的です。

昨年の夏、当センター1階に「ウミゴミラの海ごみ研究室」が完成し、夏休み宿題相談教室を開講しました。次代を担う子供達に海ごみや里海等を知ってもらうとともに、保護者の皆様にライフスタイルを変えていただく一助となることを願っています。香川県にお越しの際には、当センターにお立ち寄りいただければ、いつでもご案内いたします。

最後になりましたが、中国・四国支部の会員の皆様には、並々ならぬご理解とご協力を賜り、無事に支部長を務めることができましたことに感謝申し上げますとともに、全国の役員の皆様には、情報交換する機会をいただきまして、誠にありがとうございました。来年度から2年間、香川県は常任理事（企画部会長）を務めさせていただきますので、引き続き、ご厚誼賜りますようよろしくお願い申し上げます。



オープニングセレモニー 平成30年7月24日